

## 山本 敦史

YAMAMOTO, Atsushi



准教授

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL <http://pfos.jp>E-Mail [atyamamo@kankyo-u.ac.jp](mailto:atyamamo@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

■ 主な担当科目 化学概論、化学実験、環境化分析化学特論

## ■ 研究者略歴

1993 (平成 5) 年 3月	鳥取県立鳥取西高等学校卒業
1997 (平成 9) 年 3月	九州大学理学部化学学科卒業
1999 (平成11) 年 3月	九州大学大学院理学研究科化学専攻修了
1999 (平成11) 年 4月	ユニチカ株式会社
2000 (平成12) 年 4月	大阪市立環境科学研究所
2014 (平成26) 年 3月	関西大学大学院理工学研究科博士課程修了、博士 (工学)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部講師
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 大学院環境経営研究科 環境学専攻 准教授

## Research

■ 取得学位 博士 (工学) (関西大学)

■ 専門分野 分析化学、質量分析

■ 現在の研究テーマ

- ・環境中残留性汚染物質の分析、生体影響評価
- ・暮らしに身近な化学物質のリスク評価
- ・食品中の栄養成分等の探索

■ 受賞歴 2017年 (平成29年) 5月 奨励賞 (日本質量分析学会)

■ 所属学会 日本環境化学会、アメリカ化学会、日本質量分析学会、日本食品衛生学会

## Data

## ■ 研究等活動

## 【報文・総説・解説】

- ・ Identification of Anthropogenic Compounds in Urban Environments and Evaluation of Automated Methods for Reading Fragmentation-A Case of River Water Atsushi Yamamoto, Naoko Matsumoto, Hideya Kawasaki, Ryuichi Arakawa Mass Spectrom. (Tokyo), 5, A0045 (2016), doi: 10.5702/massspectrometry.A0045
- ・ A Bayesian approach for estimating hexabromocyclododecane (HBCD) diastereomer compositions in water using data below limit of quantification Makiko Ichiara, Atsushi Yamamoto, Naoya Kakutani, Miki Sudo, Koh-ichi Takakura Environ. Sci. Pollut. Res., 24, 2667-2674(2017), doi: 10.1007/s11356-016-7990-5
- ・ Distribution of perfluoroalkyl compounds in Osaka Bay and coastal waters of Western Japan Vladimir P Beskoski, Katsuya Yamamoto, Atsushi Yamamoto, 他7名 Chemosphere, 170, 260-265 (2017), doi: 10.1016/j.chemosphere.2016.12.028
- ・ Reevaluation of stockpile amount of PFOS-containing aqueous film-forming foam in Japan: gaps and pitfalls in the stockpile survey Yasuyuki Zushi, Atsushi Yamamoto, Kiyotaka Tsunemi, Shigeki Masunaga Environ. Sci. Pollut. Res., 24, 6736-6745 (2017), doi: 10.1007/s11356-017-8374-1
- ・ MS技術を応用した環境分野の研究動向 松村千里, 中野武, 東條俊樹, 市原真紀子, 西野貴裕, 山本敦史, 宮脇崇, 水環境学会誌, 39, 436-443 (2016)

## 【学会・研究会】

- ・ マススペクトルから見つける環境中人為物質 (第76回分析化学討論会 岐阜: 2016年)
- ・ Reading of accurate mass spectra to find anthropogenic substances in the environment 21st International Mass Spectrometer Conference (トロント: 2016年)
- ・ 高分解能質量分析データと解析ツールを用いた環境中人為物質の同定 第11回 Japan Analytical Instruments Active users Network ミーティング (大阪: 2016年)
- ・ X500R QTOF システムを用いた最新の農業分析 (第112回日本食品衛生学会学術講演会 函館: 2016年)
- ・ 高分解能質量分析法を用いた環境中人為物質の同定 (第17回高分子 MS 研究会 大阪: 2016年)
- ・ High-resolution mass spectrometry as a sophisticated technique for screening NIAs eluted from PET bottle 254th American Chemical Society Annual Meeting (ワシントンDC: 2017年)
- ・ ペットボトルから溶出する化学物質に関する検討 (第113回食品衛生学術講演会 東京: 2017年)

## ■ 社会貢献活動

- ・ 第64回質量分析総合討論会 (2016年5月) 「質量分析で見る環境と人々の暮らしのかかわり」セッションオーガナイザー
- ・ 鳥取県分析技術勉強会世話人
- ・ ジャパン・ヤング・ウォーター・プロフェッショナルズ (Japan-YWP) 広報担当運営委員 (2010年4月~2016年3月)
- ・ 質量分析講習会企画委員 (2015年11月~2017年6月)
- ・ 西日本地区食品衛生検査機関協議会講師 (2017年8月)